

## 技術浸透について

酪試 天地白山人

農家に新しい知識技術の普及をはかることは極めて難しい仕事であることを常に痛感するのであります。過去の指導事業を振り返って見ますと農家のレベルが低いからこの程度でよからうという考え方で、農家を一段と向上させようという積極的な方法ではなかったようでありましたが、一面には農家としても積極性がなく、古い慣習にのみにこだわっていたことも事実ではないでしょうか。或る一つの事柄を指導するにしても枝葉末節の型のみを普及していたに過ぎないので、その由って来る処の根きよは省略して結果的な型式をならべたに過ぎないものであります。

日本の農業の推進が遅れ農家の技術の進歩が学問についていなかったのも一面において農家の知識にハンデキャップを持たせすぎた指導に一因があったのではないのでしょうか。なるほど過去の農家は知識技術に遅れをとっていたかもしれませんが、低いものを低いからといってそのレベルに合わせていったのでは何年たっても進歩は望めないのではないのでしょうか。従来を普及するには短時間でよかったのですが、基礎から積み上げるためには時間的にも長くかかると考えられます。

「なぜこうしなければならないか」この「なぜ」ということが農業技術の基本で、このことが理解できれば技術は一つの型にとらわれることがなく、いろいろな応用型へ発展していくのであります。型を知って型を出ることができないのが過去の農業技術であります。

今後新しい科学性のある農業を育てあげるためにはその技術者もたゆまぬ努力が必要でありますし、又自信のない指導農家を迷わす危険性が大きいと言わなければなりません。

以上の事柄について一例をあげて書いてみますと次のようなことであります。

家畜の運動の問題で例えてみますと、従来家畜に運

動をさせなければならないことは誰もが異句同音に話をしているのでありますが、しかし「なぜ」運動をしなければならないかを言わずに運動は必要であるから必ずさせなさいと言うことで終わっているのです。この程度の話は過去何年間いつも聞かされていましてピンと感じないでしょう。これをもう一步踏み込んで貯溜血の関係を説明し、その他臓器と運動との関連まで話せば基本的なことから応用面が判然とすることでしょう。私等はこのような基礎を農家に理解させるために基礎講座と呼んで新しい酪農家には最初から指導して実際に実績をあげています。

次に講習会場でこんな質問がよく出されるのであります。「1日何時間位運動をさせたらよいでしょうか」この質問を従来の回答では1日2～3時間位でよいでしょうと言うのが普通であります。これでは一つの型を教えていることになります。と言いますのは牛を飼うと言うことは牛に合わせて飼うと言うことで、型を牛に合わせるのではなく牛の年令やその他の状態を観察してその牛に適合した運動を与えるのが本筋であります。

牛に合せた飼い方それは牛の健康又は各面の条件を飼育者が知って初めてその牛に適した飼い方になるのであります。従来その牛の状態はこうであると言うことを指導していたのでしょうか。この牛はここがこうであるからこれにはこのような養分を与え飼料の種類はこんなものにして、運動もこれ位させてこんな状態であるから、こんな時にはこの程度でよいと言った指導方法が必要であると考えられます。

即ち一般的な型である2～3時間と言った説明から一步進んでその牛の諸条件を観察する力を与えること、つまり運動方法の基礎になることはその牛を観察することが基本であります。勿論運動だけの事ではありませんが総べてこの点をよく理解させる事が肝要であります。牛を飼う時に飼料計算をしますが、飼

## 岡山畜産便り1959.01

料計算までは誰でもが実施するのであります。これは牛飼いの技術ではないようです。その計算で給与飼料が与えられその結果その牛に影響がどのように出てきたかをよく観察判定して、それによりいろいろな方法を講じるのが牛飼いの技術であります。牛を知らずして牛を飼うと言うことは科学的とは言えない訳であります。

今後の指導普及については従来のような抽象的なものでは力が乏しく効果を期待することは難しいと考えられます。

先ず第一に基礎講座を反復徹底させ、第二に実地と学理との両面から徹底させることが肝要であると考えられます。この意味から従来 of 講習会の在り方についても再検討を要すると言わなければなりません。